

- 【文部科学省】 31~33教育課程特例校(徳育科)
- 【都教育委員会】 28~オリンピック・パラリンピック教育推進校 28~学校と家庭の連携推進校
29~学校マネジメント強化モデル事業実践校
- 【市教育委員会】 25~武蔵村山市N I E推進校 26~「徳育科」推進モデル校
31 小中一貫教育推進校(五中校区) ラオス・パチュドン校姉妹校



 <h1 style="text-align: center;">八小だより</h1> <p style="text-align: center;">武蔵村山市立第八小学校 令和元年11月1日 http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmc8s/index.html</p>	<p style="text-align: center;">徳育科のバイオニア コミュニティスクール</p> <p style="text-align: center;">教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 考える子 ○ 思いやりのある子 ○ やりとげると ○ 礼を重んずる子 <p style="text-align: center;">行動目標</p> <p style="text-align: center;">わけをそえて話すことができる子 教室で話しているのは一人</p>
---	---

何十年後にも心に残る展覧会に

副校長 植杉 義久

私は、図画工作・美術の授業が好きでした。正確に言うと「先生と両親に『好きにさせてもらった』」かもしれません。

私が小学2年生の時に写生会がありました。描く対象は、学校で飼っていた「にわとり」でした。じっとしているはずもないにわとりをずっと目で追い、一生懸命に描きました。描き終わった絵は、校内に全員掲示されました。自分の絵が、周囲の絵と比べて上手かどうかなど全くわかりませんでした。

参加日に来校していた両親と絵を眺めていると、担任の先生が通りかかり「植杉君の絵とても上手ですよ。特にわとりが走っている感じが出ている足が素晴らしいです。」と声を掛けてくださいました。私は、その言葉にとっても感激したのを40年近く経った今でも覚えています。また、両親も「本当に動き出しそうだね。」と褒めてくれ、祖父母にも伝えてくれました。

私は、この出来事以降絵を描くことが好きになりました。絵を描くことだけではなく、工作や粘土といった立体的なものを作り出すことにも、楽しさや喜びを感じるようになりました。自分の作品が優れていると思ったのではなく、創作することが好きだったと言えます。その気持ちは、今でも変わっていません。この気持ちは、当時の担任の先生と両親のお陰だと思っています。

さて、本校では今月の28日(金)から30日(土)まで展覧会が行われます。今年度の展覧会は、「かがやく個性、ひろがる世界」というテーマのもと、より子供たちの創造性を伸ばし広げるため、「造形タイム」を設定したり、子供たちが自分の作品について説明したりする活動を取り入れています。

音楽会、学芸会、展覧会は、子供たちが『自分』を表現する行事です。表現する方法は、それぞれ違います。音楽会は、「声と楽器」学芸会は、「表情と声、動作」。展覧会は、「作品」。これらを比べるとどうしても音楽会と学芸会は、【動】、展覧会は、【静】と思われがちかもしれません。しかし、【作品】を作り出す子供たちの頭の中は、大いに動き続けています。完成した一つ一つにも作品にも動きがあるはず。そこには、子供たちの「今」が表現されています。形、色、材料などなぜそれを選んだのか、なぜそれを使ったのか、どんな気持ちがそこに働いたのかなどを考えながら鑑賞していただくとさらに展覧会を楽しんでいただけるかと思えます。そして、子供たちの頑張りに声を掛けてください。きっと何十年経っても忘れられない展覧会になるはず。我々教職員も素敵な展覧会になるように尽力いたします。



造形タイム中の6年生

